

子ども読書支援センターニュース

No.177

2019.2.28.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

○日時：平成31年3月5日（火）11:00～11:20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《2月のおはなし会で使った本》

『どんどんばしわたり』 こばやしえみこ/案 ましませつこ/絵 こぐま社 2018

『ひよっこりひとつ』 佐々木マキ/さく 福音館書店 2016 『いちねんのりんご』 菊地清/作・絵 富山房 1995

『せんろはつづく』（大型絵本） 竹下文子/文 鈴木まもる/絵 金の星社 2010

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 價格は消費税抜き

＜絵本－5、6歳から＞

『つらら みずとさむさとちきゅうのちから』 細島雅代/写真 伊地知英信/文 ポプラ社 2019.1 ¥1500

冬になると、家の軒下などで見かける「つらら」。つららは、どんなところにできるのかな。つららは、どうして長くなるのかな。つららのでき方やその魅力を、たくさんの美しい写真とともに伝える。つららをつくる実験や、巻末の「つららの名前地図」のページでは、日本各地のつららの名称等について紹介。「ふしぎいっぱい写真絵本」シリーズの1冊。

＜絵本－小学校低学年から＞

『うかいのうがい』 さくらせかい/作 ブロンズ新社 2018.12 ¥1300

けがをした5羽の鶴たちを助けたハンさんは、鶴飼いになって魚をとろうと考える。しかしいくら教えてうまくとることができず、しまいにハンさんは喉を痛めてしまう。そこで「がらがらうーうー がらがらうー」とうがいをはじめたハンさん。鶴たちもそのままねをはじめ…。「うがい」という言葉は「鶴飼い」が語源だとか。ハンさんと鶴たちの様子がほほえましい絵本。

『かんべきなこども』 ミカエル・エスコフィエ/作 マチュー・モテ/絵 石津ちひろ/訳 ポプラ社 2019.1 ¥1400

ある日（こどもストア）へ出かけたマカロン夫妻。「こちらには完ぺきな子どもっておいていらっしゃる？」店員「ただいま在庫を確認いたします。あつひとり残っておりました！」こうしてマカロン夫妻のこどもになったピエール。かわいく、かしこく、お行儀もよいピエールは、夫妻にとって完ぺきな子どもだと思われたのだが…。ブラックユーモアたっぷりのフランスの翻訳絵本。

『やましたくんはしゃべらない』 山下賢二/作 中田いくみ/絵 岩崎書店 2018.11 ¥1600

山下くんは学校でひと言もしゃべらない。授業中はずっとふざけているのに、小学校1年から6年生の今まで、彼の声を聞いた友達はない。授業参観の作文発表で、山下君はラジカセに録音した声を流して発表する。場面譲りの男の子と、彼を友だちとして自然に受け入れているクラス。文作者の子供時代のエピソードを描く。「こんな子きらいかな？」シリーズ第3作。大人にも向く。

＜絵本－小学校中学年から＞

『ごろべえもののけのくにへいく』 おおともやすお/作・絵 童心社 2018.12 ¥1300

昔、怖いもの知らずのごろべえという強い侍がいた。「怖い」とはどんな気持ちなのかどうしても知りたくなったごろべえは、もののけ達の住む国へ旅立つ。大将の大入道はあの手この手で怖がらせようとするが、ちっとも怖くない。戻ってきたごろべえに「わたしがお教えしましょう」と寺の坊主。怖いもの知らずのごろべえを怖がらせた方法とは？痛快で楽しい絵本。

『そらのうえのそうでんせん』 鎌田歩/作 アリス館 2018.12 ¥1400

送電線は日本中に網目のように広がり、発電所でつくられた電気を遠くの町へ届けている。その送電線を支えるのが鉄塔。地面から50メートルの高さの鉄塔にのぼり宙乗り機に乗って送電線の上で作業をする「ラインマン」たちの仕事を描いた知識絵本。パノラマページ「鉄塔図解」あり。見返しには「電気がとどくしくみ」、鉄塔の高さがよくわかる「たかさくらべ」の図がある。

＜絵本－小学校高学年から＞

『ダム—この美しいすべてのものたちへ—』 ディヴィッド・アーモンド/文 レーヴィ・ピンフォールド/絵 久山太市/訳 評論社 2018.12 ¥1500

イギリス、ノーサンバーランド州の原野に作られたダム。ダムの底に村が沈む前、父と娘は村のすべての家を訪れ、バイオリンを奏で、歌をうたった。かつて村で暮らしていた人々、生き物、精霊たちに音楽を捧げるために…。ダムは完成し、美しいダム湖は人々の憩いの場になった。国際アンデルセン賞受賞作家とケイト・グリーナウェイ賞受賞画家が、実話をもとに作った美しい絵本。

＜読み物－低学年から＞

『ウィリーのぼうけん』 マーガレット・ワーズ・ブラウン/さく 上條由美子/やく 広野多珂子/え 福音館書店 2019.1 ¥1100

「自分だけの小さな動物が欲しい」とおばあちゃんに電話をかけたウィリー。おばあちゃんは、早速木箱にウィリーが喜びそうな小さな動物を入れて送ってやることに。ウィリーが届いた木箱を、慎重に開けると…。「ウィリーのどうぶつ」「ウィリーのポケット」「ウィリーのおでかけ」の3話を収録。自分で考え行動するウィリーと、そばであたたかく見守る大人たちが魅力的な作品。

＜読み物－中学年から＞

『ふしぎなようせい人形』 ルーマー・ゴッデン/作 久慈美貴/訳 たかおゆうこ/絵 徳間書店 2019.1 ¥1400

4人兄弟の末っ子エリザベスは、何をやっても失敗ばかり。7歳のクリスマスの日、ひいおばあちゃんにプレゼントを手渡す時に、またまた大失敗。落ち込むエリザベスに、ひいおばあちゃんは、お守り代わりに、妖精人形を持っているようにすすめる。その日か

ら、不思議な妖精の声がエリザベスを助けてくれるようになり…。翌年のクリスマスまでの、エリザベスの成長物語。

<読み物―高学年から>

『右手にミミズク』 萩内明子/作 nakaban/絵 フレーベル館 2018.10 ¥1400

とつさには、右と左の判断ができない小6の丈(たける)。恥ずかしい思いをしていたが、転校生の実里に右手に描いてもらったミミズクの絵のおかげで、左右の判断がしやすくなる。そこから実里のことが気になり始める丈だったが、つっけんどんな実里の心には、なにか大きな悩みが隠れているのではないかと思うようになった。第1回フレーベル館ものがたり新人賞大賞受賞作。

『ユンボのいる朝』 麦野圭/作 大野八生/絵 文溪堂 2018.11 ¥1300

小5の幹は、クラスメイトの菊池君に強要されて消しゴムを万引きしてしまった。両親にも友だちにも相談できず、一人で悩む幹。そんな時、家のマンションの前のビルの取り壊しが、少しずつ進んでいることに気づく。偶然、ビルの上のユンボを操る作業員さんと会話するようになった幹は、消しゴムや、菊池君のことを相談してみた。悩みながらも正しく生きようとする幹に共感できる1冊。

<読み物―中学生から>

『ジュリアが糸をつむいた日』 リンダ・スー・パーク/作 ないとふみこ/訳 いちかわなつこ/絵 徳間書店 2018.12 ¥1600

7年生の韓国系アメリカ人ジュリアは、親友パトリックと一緒にカイコを育てて生糸をとる自由研究をすることに。でもジュリアは「韓国っぽい」と感じて気乗りがしない。しかし、卵からかえった小さな幼虫の変化を観察し、世話をするうちにすっかりカイコのとりこに。アイデンティティの問題に向き合う少女の視点から、互いに理解することの大切さを考えさせる友情と成長の物語。

『ぼくたちは幽霊じゃない』 フアブリツィオ・ガッティ/作 関口英子/訳 岩波書店 2018.11 ¥1700

定員オーバーのゴムボートで、母や妹と共にイタリアへ渡ったアルバニア人のウイキ。待っていたのは、泥地のバラック住まい。警察官に見つからないように気配を殺す、不法移民としての幽霊のような生活だった。どんな生徒も分け隔てなく受け入れてくれる先生と家族の愛情に支えられ、困難に立ち向かう、新しい人生を切り開いていく少年の物語。「STAMP BOOKS」。

『願いごとの樹』 キャサリン・アップルゲイト/作 尾高薫/訳 偕成社 2018.12 ¥1500

わたしは、この移民の町を見守ってきた樹齢216年のオークの木、レッド。「願いごとの樹」とも言われるわたしの枝に、引っ越ししてきたばかりのイスラム系の少女が願い事を結びつける。その願いをかなえるべくわたしは、住人のカラスやクロネズミの協力を仰いで作戦を実行するが…。切り倒されそうになりながらも、希望とユーモアと愛に満ちたレッドの温かさが心にしみる物語。

『地底旅行』 ジュール・ヴェルヌ/作 平岡敦/訳 岩波書店 2018.11 ¥840

謎の古文書に書かれた暗号を解いた鉱物学者リーデンブロック教授とその甥のアクセルは、アイスランドの火山の噴火口から地底を目指す大冒険の旅に出発。叔父と意見を異にしながらも冒険に引きずり込まれ、様々な危険に立ち向かうアクセル。19世紀後半、科学技術の急速な進歩の時代に最新の科学知識を詰め込んだ冒険小説で大成功を収めた作者の作品の新訳。岩波少年文庫。

<ノンフィクション―小学校低学年から>

『ようこそ!葉っぱ科学館』 多田多恵子/写真・文 少年写真新聞社 2019.1 ¥1500

食べられないよう、葉の中に毒や苦みをもっている葉っぱ。ふちにガラスのトゲをつけ、身を守る葉っぱ。水をはじいて表面を掃除し、呼吸しやすくしている葉っぱ。草食の虫や動物だけでなく、暑さ寒さや乾燥からも狙われている葉っぱの、生き残るために知恵を、カラー写真とともに紹介。NHKラジオこども科学電話相談の回答者である著者の解説も丁寧で、低学年でも理解しやすい。

<ノンフィクション―小学校中学年から>

『密着!お仕事24時 1料理研究家の1日〈口尾麻美〉』 高山リョウ/構成・文 添田康平/写真 岩崎書店 2019.1 ¥2500

「大きくなったら、好きなことをしてみたい。私の好きなものってなんだろう?」働く人の1日に密着し、その仕事を写真とともに紹介する「密着!お仕事24時」シリーズ全6巻。1巻では、「旅する料理家」ともよばれている料理研究家・口尾麻美を取り上げる。巻末には、料理研究家になるまでの道のりも掲載。将来の夢や職業選択の学習で活用できる。

『最新!リサイクルの大研究』 田崎智宏/監修 PHP研究所 2019.2 ¥3200

ごみの処理やリサイクルについて、基本的な知識や最新の技術を、分かりやすく解説。また、家電や自動車、建物など、製品ごとのリサイクルの最新情報も掲載。世界のごみ処理やリサイクルの状況、2040年ごろから急増すると考えられる、太陽光パネルのリサイクルについて書かれたコラムも興味深い。小4社会科で活用できる。「楽しい調べ学習シリーズ」。

<ノンフィクション―小学校高学年から>

『未来をつかめ!平成ビジュアル図鑑 こんなに変わった!みんなの生活』 大江近/総監修 文研出版 2018.12 ¥3000

平成30年間の出来事に興味関心を持てるよう、ビジュアルに図解した図鑑。本巻では、平成時代の生活がどのように発展してきたのか、スポーツ・文化・テクノロジー・環境のジャンル別に分かりやすく紹介する。すべてデータは、平成30年分まで掲載。第1巻『こんなに変わった!みんなの学校』、第3巻『こんなに変わった!47都道府県』の全3巻。

<ノンフィクション―中学生から>

『星の旅人 伊能忠敬と伝説の怪魚』 小前亮/著 小峰書店 2018.12 ¥1600

56歳で蝦夷地の測量に向かう忠敬の一一行に無理やり加わった少年平次。前年の測量隊に加わって行方不明になった父の消息を尋ねながら測量技術を学んでいく。伊能忠敬の人物像や測量方法、旅の苦労を少年の視点で描く歴史読み物。17項目の解説ページでは写真や図をふんだんに用いて、伊能忠敬の生い立ちや、時代背景、当時の風俗、測量技術の進化などが説明され、理解が深まる。

『高校生からのリーダーシップ入門』 日向野幹也/著 筑摩書房 2018.12 ¥820

力ある一握りの人が持つ才能・能力としてのリーダーシップではなく、これから時代に求められる「権限によらないリーダーシップ」の授業を実践している著者が、高校生のうちからそのリーダーシップの態度とスキルが身につくようレクチャーする。個人で取り組める習得のノウハウのほか、始めた人が直面する様々な問題への対処法も伝える。ちくまプリマー新書。

<研究書>

『おはなしのろうそく32』 東京子ども図書館/編 東京子ども図書館 2018.11 ¥500

ストーリーテリングをする人のために編集された小さなお話集。32巻には「しゃれこうべ」「行けざんざんの梨」「ヘビのうらみ」など、外国や日本の昔話に、松岡享子作の「おばけのかぞえうた」を加えた全5編を収録。巻末には話す人のためにそれぞれのお話の所要時間や対象年齢、話すときのポイントが掲載されている。夏の夜のお話会などにぴったりのお話が見つかる。